

令和五年度 お茶の水女子大学 文教育学部  
学校推薦型選抜 帰国子女・外国学校出身者特別選抜  
試験問題 人文科学科

※哲学・倫理学・美術史プログラムを志望する者は、【問題1】を、  
比較歴史学プログラムを志望する者は、【問題2】を、  
地理環境学プログラムを志望する者は、【問題3】を、  
それぞれ解答しなさい。

## 令和五年度 お茶の水女子大学

### 学校推薦型選抜 帰国子女・外国学校出身者特別選抜 試験問題

#### 文教育学部 人文科学科(哲学・倫理学・美術史) 小論文

#### 【問題1】 以下の文章を読んで、その後の問いに答えなさい。

二〇二〇年一二月、京都府、兵庫県、岡山県に住む三人の女子高校生たちが、「ファミリーマートの『お母さん食堂』の名前を変えたい！」とネット上で署名運動を始め、七五〇〇人以上の賛同を得ました。女性差別やジェンダーバイアスについて学んだ際に「お母さん食堂」のネーミングに疑問を抱いた彼女たちは、街のあちこちに店を構える大手コンビニの店頭に「お母さん食堂」のポスターが掲げられることで、それを目にした子どもたちに、将来にわたって「女性Ⅱ家事・育児」といったアンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）が根強く残っていくのではないかと訴えました。

彼女たちの訴えに対して、SNSでは「（お母さん食堂）の何が悪い」「言葉狩りだ」など、強い反発もおきました。「お母さん食堂」の何が悪いのでしょうか？ おうちでご飯を作ってくれる人を「お母さん」としてイメージするのが、なぜいけないのでしょうか？ 「お母さん食堂」というネーミングは、実は、フェミニズムが長く取り組んできた「私的領域における女性の無償労働」という問題と、深く関わっています。そしてそれはまた、新型コロナウイルスのパンデミックの渦中にある私たちの社会が、ケア労働をどう考えてきたのか、そして今後どう考えていくのかという問題とも、関わっているのです。

新型コロナウイルス感染症が拡大した二〇二〇年から、ケア労働の重要性があらためて見直されています。医療関係だけでなく、介護施設、幼稚園や保育園から小中学校の教育機関まで、ケア労働に従事する人たちの存在なくしては、私たちの社会が機能しなくなることをひしひしと実感した人たちは多かつたのではないのでしょうか。医療従事者や介護関連の仕事をしている人たちは過酷な労働条件のもとで、感染の多大なリスクにさらされ続けながら働いています。学校や保育園が閉鎖されると、子どもの面倒を見るために仕事をやめざるをえなくなって経済的困難に直面する人たち（多くは女性）がいます。ケアは社会の基盤である仕事なのです。

ケア労働にたずさわる人たちを「社会に欠かせない重要な仕事をしている人たち」という意味をこめて「エッセンシャル・ワーカー」と称<sup>ただ</sup>える報道も目立ちました。ところが称える一方で、ケアにたずさわる人たちがその労働の過酷さに見合った報酬や待遇を得ているとはとても言えず、社会的な保障さえも十分ではないことが、感染拡大が長期化する中でいつそう鮮明に浮き彫りになっています。

パンデミックにおいて「エッセンシャル（絶対に欠かせない）」とされたケア労働は、にもかかわらず、長いことその価値が低く見られてきたのです。これを問題視する声もあげられてきましたが、いっこうに改善される気配はありません。その理由の一つに、育児や介護、さらに食事を用意したり家を整えたりという日常の家事などのケア労働全般を、女性が担わされてきたことがあります。

ケア労働はそれに対して報酬が支払われるべき「仕事」ではなく、「女性の領域」とみなされた私的領域において女性たちが自然に担う役割である、と位置付けられてきたのです。このように再生産労働を女性たちだけに担わせることは、女性を公的領域から排除するだけでなく、私的領域においても男性の支配を強めている、とフェミニス

トたちは指摘してきました。さらに、労働力を再生産する仕事に対価を支払わずに済むこの仕組みは、資本主義社会にとっても大変に都合の良いものでした。

清水晶子『フェミニズムってなんですか?』文春新書 二〇二二年 より(一部改変)

問一 「お母さん食堂」の何が問題だと著者は指摘しているのでしょうか。200字以内で答えなさい。

問二 文中にあるような「女性が自然に担う役割」とされていることをめぐる状況について、あなた自身の考えを、600字以内で論じなさい。

## 令和五年度 お茶の水女子大学

### 学校推薦型選抜 帰国子女・外国学校出身者特別選抜 試験問題

#### 文教育学部 人文科学科(比較歴史学) 小論文

【問題2】次の文章を読み、問一、問二に答えなさい。

日本において文書資料、特にそのオリジナルの伝来にとって決定的な役割を果たしたのは「家」であり、これは二つのやり方で文書保存に貢献した。一つは、国家機構の解体により、諸権利の維持、証明のために文書を保存することが当事者に求められるようになったため、受益者自身のもとの文書保存が古代末期以降一般化したことである。(中略) いま一つは、国家行政官職の「家産化」の進行である。日本の国家行政機構は、もっぱら貴族や武士階級によって代々担われるが、関係の行政資料やマニュアル、特に行政日誌が、国家機構の内部ではなく、それを家産化した特定の「家」に相続財産の一部として伝来する。この動きは、中世を越えて近世においてもさらに拡大したかたちで展開し、そこでは、幕府の中央機構から、末端の農村共同体にいたるまで、公権力、公行政を、将軍の家臣(団)や在地の名望家たちが担い、膨大な公文書を保管してきた。日本は、おそらく世界最大の文書資料伝来数を誇るが、それは、権利あるいは職の受益者としての「家」の長期にわたる持続にもつばらよるものと考えられる。

中国においては、一二世紀以前のほとんどすべての文書資料のオリジナルは伝来していない。遺っているのは、発掘されたごく僅かの刻銘や、後世に別の媒体に書写されたか、あるいは言及された例だけで、特に歴史叙述は重要な情報源となっている。中国における文書資料の伝来状況は近世になっても改善せず、このことは特に、行政機構において保管されていたはずの資料群について該当する。

この資料伝来の欠陥は、通常、政治的、社会的な側面から説明されている。まず革命の際に新王朝が行った、旧王朝資料の体系的な破壊があげられる。このことは、少なくとも中国においては、行政機構に保管された文書は、政治的な事件等の事由により、失われやすいことを示しているように思われる。

しかしながら、ここで重要なのは、中国国家の基本的特徴である。これは、原則的に、すべての公権力を独占、制御する極度に中央集権化された統治組織であり、おそらく膨大な量の文書資料が生産され、責任ある役所のもとで保存されていたはずである。所有権や契約等も、基本的に国家が管理し、登記しているからには、当事者はみずからの権利を証明する根拠資料を保管する必要がある。日本もその制度を導入したはずであるが、他方、古代・中世の日本と中国の国家制度の機能においては、顕著な相違が見られる。中国では、公権力と個人との間に位置する、いわゆる「中間的諸権力」が存在しないといわれるが、これらは、家、共同体、あるいは法行為の主体となり得る法人格を有するなんらかの機関などで、日本や西欧ではおなじみのものである。中国において、法関係の主体となり得るような「団体」がないならば、公的舞台では国家と個人がいわば裸で向かい合っている「究極の市民社会」が実現していたことになるが、ここで問題なのは、個人は権利を一生を越えて保持できない、つまり文書資料を中長期的に保存する主体とはなりえないという点である。

これに加えて、さらに重要な論点がある。中国国家の官僚は、非常に厳しい選抜試験によってリクルートされていた。つまり、中国の国家官僚は、皇帝の忠実な下僚であって、そこでは、日本や西欧にみられた官職の家産化などは介入する余地がない。ここで官僚制の比較史を行う余裕はないが、世界史的に見れば、この中国型国家官僚制は珍しくないとも思える。オスマン帝国における奴隷官僚もそうであるが、古代ギリシア、ローマ世界においても、実務的業務を担当する「能力によるエリート」はしばしば奴隷であった。この点から見れば、国家行政が家産化され、(能力ではなく)「身分によるエリート」によって実務が担われる社会こそ奇妙とも言えるであろう。いずれにせよ、中長期的な文書資料の保管と伝来に決定的な影響を与えるのは、文書自体の価値ではなく、文書に関わる社会政治機構とその機能のあり方なのである。

(岡崎敦「古代・中世文書資料の日欧比較」河内祥輔ほか編『儀礼・象徴・意思決定―日欧の古代・中世書字文化―』思文閣出版、二〇二〇年。引用にあたり一部省略・改変した。)

問一 なぜ傍線部のような状況が生じたと筆者は考えているか。本文中で述べられている中国の国家機構と官僚制という二つの面から、二〇〇字以内で説明しなさい。

問二 右の文章で筆者は、文書資料が現代にどのように遺されているのかを日本と中国で比較し、その背景や理由として国家機構や官僚制の違いを挙げている。もしあなたが比較を行うならば、どのようなテーマを取り上げたいと思うか、その理由や比較の論点をあげつつ、具体的に六〇〇字以内で述べよ。なお、比較する対象は文書資料に限定せず、時代や地域も限定しない。

令和五年度 お茶の水女子大学

学校推薦型選抜 帰国子女・外国学校出身者特別選抜 試験問題

文教育学部 人文科学科(地理環境学) 小論文

【問題3】 次の文章は、ウェブ地図の問題点やその利用に際して求められるリテラシーについて論じている。この文章を読み、問一と問二に答えなさい。

地図を使って場所を探す作業は、グーグルアース、グーグルマップの登場によって、いまやPCや携帯端末上での操作に置き換えられている。つまり、これらのウェブ地図を使えば、地名を入力して検索するだけで探している場所の地図をピンポイントで表示することができ、位置を確かめる手間は以前と比べてはるかに小さくなったのである。

しかし、一見すると同じに見えるこれら二つのウェブ地図の間には、地図表現や使い方に違いがある。グーグルアースはバーチャル地球儀として設計されているため、球面に表された地球上での位置を探し出し、地球儀を回すように自在に向きを変えることができる。グーグルマップでも基本的に同様のことはできるが、メルカトル図法で投影されて表示され、平面上で表示範囲を平行移動、拡大・縮小することになる。

場所の検索作業をグーグルアースで行った場合、地球儀から始まってズームインして次第に地図の範囲が絞り込まれるため、求める場所の地球上でのおおよその位置は理解できる。しかし、グーグルマップの場合、対象となる場所の近傍だけがピンポイントで表示されるため、スケールを操作しないとそこがどこかはわからないことがある。

(中略)

じつさい、ある自治体で野生動物の観察記録を作成してウェブ地図に表示して報告させたところ、場所の特定が難しい地図画像を用いた報告がみられたという。これは、ウェブ地図といえども人に伝える際には、目的に応じて適切な縮尺を選択する必要があることを示している。それと同時に、グーグルマップなどのウェブ地図は読む側のスケール感覚を麻痺させてしまう恐れがあるともいえる。

もちろん、これは使い方次第である。ウェブ地図をうまく使えば世界中の見知らぬ場所の大縮尺地図や空中写真を自由に閲覧することができ、グーグルのストリートビューがカバーしている範囲であれば、居ながらにして現地のバーチャルツアーを楽しむこともできる。ただ、これらの恩恵がある一方で、便利さの陰に落とし穴が潜んでいる。グーグルマップのようなウェブ地図のユーザは、単に機器やアプリの操作方法だけでなく、後述する問題点を意識しながら、地図をうまく使いこなす必要がある。その点で、従来の地図とは異なるリテラシーが求められるのである。

こうした変化は、グーグルマップに限らず、ウェブ利用に共通する特徴でもあり、インターネットによって変わりつつある知のあり方に警鐘を鳴らす研究者は少なくない。たと

えば、政治学者のレッシングは、環境管理型権力としてのインターネットのアーキテクチャに行動が規定されていることに対して、利用者自身が気付かないという危険性を指摘している。ここで、アーキテクチャはコードとも呼ばれ、人の振る舞いに影響を及ぼす四つの規制の様式（法律、規範、市場、コード）のうちの一つである。このうち、インターネットの文脈で最も重要な作用をもたらすのがコードだという。

そうした作用の一例が、フィルタリングという仕組みである。たとえば、ウェブの検索エンジンには学習機能が組み込まれていて、利用者の検索履歴に基づいて順位付けされた検索結果を表示するようになっていて、これはアマゾンの商品検索の結果が、過去の検索履歴をもとに関連商品をリコメンド（推奨）するのと同様の原理に基づいており、協調フィルタリングという技術が用いられている。こうしてユーザの好みや意図を推測することにより、知らず知らずのうちにユーザは、予めパーソナライズされフィルターにかけられた情報宇宙に取り巻かれることになる。そうした状態を、パリサーは「フィルターバブル」と呼んでいる。これによって、人々は興味関心のない情報から遠ざけられ、関心領域や視野が狭まることになる。

グーグルマップによる場所の検索も、ユーザの地理的関心を拡大するとは限らない。社会学者の松岡は、グーグルマップによって地図のあり方が「見わたす地図」から「導く地図」に変化したと述べている。

（中略）

また別の面では、グーグルのような便利な検索ツールの登場によって、人々は物事を覚えることをしなくなるという指摘もある。米国の心理学者スパローたちは、オンラインで見つけることができる情報は、記憶されずに自動的に忘れがちになる傾向を指して、「グーグル効果」と呼んでいる。これは、心理学者ウエグナーが「交換記憶」と呼んだものの一種と考えられる。交換記憶とは、集団で物事を記憶するあり方で、集団の各構成員は誰がその記憶を知っているかを覚えていればよい。たとえば、不案内な土地で人に道を尋ねたり、連れて行ってもらおうという行為は、一種の交換記憶を使っていることになる。グーグル効果は、記憶を委ねる相手を人間の代わりにインターネット上で蓄積されたクラウド情報に置き換えることで生じるのである。

とくに米国でミレニアル世代と呼ばれる1980年代～2000年代初めに生まれた若者たちは、生まれたときからウェブ技術に取り巻かれて育ったため、グーグル効果を受けやすいと考えられる。パウンドストーンは、米国のこの世代が国際学力テストの成績で低い順位にとどまっている原因の一つとして、グーグル効果を挙げている。たとえば、ナショナル・ジオグラフィック協会が米国の若者に行った調査では、回答者のうち18%がアマゾン川はアフリカにあると答えたり、20%がスーダンをアジアにあると思い込んでいるという結果が報告されている。一方で、架空の地図を用いて港の立地に最適な場所を答えさせると、高得点を挙げたという。これは、ミレニアル世代が持つ地理的知識が他の世代とは質的に異なっている可能性を示唆している。それが日本のミレニアル世代にあてはまるかどうかについては、そのメカニズムを含めて、さらに検討の余地がある。

パウンドストーンは著書の中で、グーグル効果の心理学的根拠として言及されているの

が、「ダニングクルーガー効果」である。これは、無知な人ほど自分の能力を過大評価する傾向を指している。たとえば、インターネットで検索すれば大量の情報が手に入るため、自分が物知りだと過信してしまうことがある。しかし、実際には前述のフィルターバブルによって、限られた範囲の情報しか検索されないため、偏った知識が形成されることになる。つまり、インターネットがもたらした見かけ上の有能さは、無知な人間から新しい知識や能力を得る機会を奪うことにつながるともいえる。

一方で、コンピュータの使い方さえわかれば、検索して探せるような知識は覚える必要はないと割り切る立場もあるかもしれない。交換記憶という概念を考えたウエグナーたちは、グーグルなどのクラウド化された記憶に頼ることを、決して悲観的に捉えているわけではない。むしろ、記憶の束縛から解放されて知的リソースを広げることで、従来なしえなかったことが可能になるかもしれないと彼らは考えていた。

こうした記憶のアウトソーシングによって脳内のリソースを有効利用できるという樂觀的な見方に対して、ニコラス・カーは、神経科学や心理学の研究をふまえて否定的な見解を示している。樂觀主義者の誤りとして彼が指摘したのは、コンピュータのメモリーと生物学的メモリーの違いを理解していない点である。たとえば、ハードウェアの制約を受けるコンピュータのメモリーとは違って人間の記憶では、思考のために一時的に情報を貯蔵する作動記憶にこそ容量の制限はあるものの、長期間保持される長期記憶は無限ともいえる拡張性を持つという。作動記憶から長期記憶に情報を移動して記憶を持続させるためには、入ってくる情報に注意を払って深く処理する必要があるが、ウェブの大量な情報にさらされると、こうしたプロセスが働きにくくなるという。

また、クラウド化された知識に頼り切ってしまうと、アイディアを思いついたり、新たな問いをたてることもできなくなる恐れもある。新しい発想に至るには、疑問を抱いたりそれを解くための最低限の知識が必要と考えられるからである。また、地名や位置などを含む現実世界についての必要最低限の背景となる知識を持っていなければ、検索結果を鵜呑みにして間違った解釈にたどり着く恐れがある。

出典：若林芳樹『地図の進化論 地理空間情報と人間の未来』創元社 2018年  
(一部改変があります)

問一 傍線部が示す内容について本文を参考にしながら二〇〇字以内で説明しなさい。

問二 著者は、この文章が掲載された書籍において、ウェブ地図の利便性と引き換えに喪失したものを取り戻す取り組みについても論じている。ウェブ地図およびその利用にかかわる問題点を本文の内容に基づき整理したうえで、それへの対応として重要となる取り組みについての自分の考えを六〇〇字以内で論じなさい。



令和五年度 お茶の水女子大学 文教育学部

学校推薦型選抜 高大連携特別選抜 試験問題

言語文化学科(日本語・日本文学プログラム)

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

いまこの国で、家庭において夫が育児や家事に費やす時間が上昇する傾向にあることは間違いないが、ほかの先進国に比べて低い水準に留まっているのも事実だ。つまり全体として見れば、依然として育児や家事のかなり多くの割合を妻の方が担っている状況は変わっていない。

こうしたなか、コンビニ大手のファミリーマートが販売する総菜のシリーズ商品が「お母さん食堂」と銘打たれたことに対して、「食事は母親が担当するもの」という意識が社会で強化されてしまう」という類いの批判が出たこと――そして、実際に高校生有志が、名称変更を求めるオンライン署名活動を行ったこと――は記憶に新しい。

それから、一九五〇年代から続いている「おかあさんといっしょ」というNHKのテレビ番組も、その名前が「育児は母親が担当するもの」という性役割の固定化に一役買っているという指摘は以前から見られる。二〇一三年からは「おとうさんといっしょ」という名前の派生番組が同局で始まり、時代や人々の意識の変化に即している面もあるが、ほぼ毎朝放映されている「おかあさんといっしょ」という番組名自体に変更はない。

ジェンダーバイアス(社会的な性役割についての固定観念)をめぐる問題に関しては、「お母さん」という言葉以外に、「母」というこの一語自体が社会で含みもってきた特定の意味合いも無視できない。

たとえば、「母語」、「母国」、「母校」といった言葉は、文字通り母体のなかで受精卵が子へと成長して生まれ出てくるという自然的事実や、その後の育児を行う役割を主に母親が担ってきたという社会的事実が基になっていると言える。つまり、言語であれ、国であれ、学校であれ、自分を産み育てた根源や基盤の比喻として「母」が機能しているということだ。そのため、たとえば先の「母語」という言葉を「第一言語」等の言葉に置き換えると、「母語」のもっているいわば「根源的な言語」というニュアンスが希薄になるだろう。すなわち、生まれた後にいつの間にか身についており、以来そこから完全には離れることができず、自分自身をかたちづくる大きな基盤となっているもの、というニュアンスである。

しかし、子どもの誕生にはもちろん父親もかかわっているし、育児を母親が担うのも必然的な事柄ではない。むしろ、「母語」、「母国」、「母校」といった言葉の使用——さらに、たとえば「運営母体」のような、「母体」の比喩的用法——は、この社会におけるジェンダーバイアスを維持する土台の一部を構成しているのかもしれない。実際、先の「母語」という言葉について言えば、たとえばある論文において、「母語」というのはジェンダー化された表現なので、実際には「親語」といった用語をあてるべき」という主張がなされたりもしている。

しかし、当該の論文で直後に「今のところ一般的に用いられる適切な代案がない」とも言われているように、「母語」を「親語」に言い換えることは（少なくともいますぐには）不可能だ。なぜなら、先に確認したような「母」という言葉が含みもつ意味合いを、「親」という言葉は歴史的に備えていないからである。また、「母」の比喩的意味が通底している言葉は、「母国」、「母校」、「母語」のほかに、「空母」、「母船」、「母屋」などさまざまなものがある。このように無数の言葉が相互に浸透し、つながり合っているなかで、「母語」という言葉だけ「親語」などに置き換えたとしても、それは不自然で浮いた言葉であり続けるだろう。

では、「母」のつく熟語は一挙に別の言葉に置き換えてしまえばよいのだろうか。しかし、まづもって、どこまで置き換えればよいのだろうか。たとえば、「酵母」や「分母」、「母集団」、「母数」、「母音」といった言葉も全部別の言葉に換えるべきなのだろうか。だが、私たちの生活に深く根を張っている言葉たちを急に引っこ抜いて、よそよそしい言葉に置き換えることは、その分だけ日本語の表現力や、日本語を用いた思考力を脆弱なものにしてしまう。「母」のつく熟語を一切用いることなしに思考し、表現し、生活を送ろうとするのは、いまの私たちには困難きわまりない。

母や母体の概念が特定のイメージ——何かを産み育てる基盤、根源、大本といったイメージ——を含みもつことは、そもそも、古今東西の多くの文化にかなり古くから見られる特徴だと言える。たとえば、ギリシア神話など各地の神話には、世界や生命の根源として位置づけられる地母神（大地の母なる神）がしばしば存在する。また、中国の『老子』にも、世界の根源について「可以為天下母（それは天下の母というべきものだ）」（第二十五章）と表現する一節がある。同様の例は、ほかにも数多く見出すことができるだろう。

そして、この種のイメージは日本の文化においても存在し、それが独自の具体性をもって行き渡り、生き続けている。それは、「母屋」や「酵母」等々の言葉というかたちで、文化遺産としての日本語にもはっきりと認められる。日本語であれ、あるいは別の自然言語であれ、子ども

もが母語を学ぶことは、それぞれの言語が息づく文化の伝統的なイメージないしは物事の見方を学ぶことを伴うのだ。この点について、現代の哲学者ジョン・マクダウエルは次のように述べている。

各々の言語が世界の見方であるというのは、各々の言語が（言語学者が考えるような意味での）特定のタイプの言語であるからではなく、各々の言語において語られる事柄ないし伝えられる事柄のゆえである。……世界を視野に入れるという観念は、成長して伝統へと入っていくという観点においてはじめて理解可能となる。そして、成長して伝統へと入っていくというのは、普通の意味で言語を学ぶことの一部を成している。その学習において、人はたんに眼前を過ぎ去る光景の諸々の相貌に対して言葉で反応する傾向性を獲得するだけではなく、どのような事柄を言うべきかを学ぶのである。

マクダウエルの言う通り、伝統へと入っていくことは、母語を学ぶことの一部を成している。ただし、このことはもちろん、物事の伝統的な見方はすべてそのまま受け継がれて保存される、<sup>(1)</sup>ということの意味するわけではない。言語は生ける、文化遺産であって、私たちの生活のかたち<sup>(1)</sup>が絶えず変容を続けるなかで、言葉やその用法も変わり続けている。

そして、特定の言葉に対する違和感は、社会や物事のあり方に対する私たちの見方が変わりとつあることを示す重要なサインでありうる。たとえば、「お母さん食堂」や「おかあさんといっしょ」といったものに見られる「お母さん」の用法は、現在でも疑問に思ったり不自然に感じたりする人が一定数おり、今後もその割合は増えていくだろう。

「お母さん」の用法が変わっていくなかで、その遠い先に、「母語」や「酵母」や「分母」も何らかの別の言葉に置き換わる未来がくるかもしれない（あるいは、こないかもしれない）。それは現時点では不明だが、いずれにしても、「母」は「親」に<sup>(1)</sup>という風にして言葉をただ機械的に置き換えようとしても、うまくいくものではない。

たとえば、いま発達心理学や看護学などの分野で用いられることのある「親性」<sup>しんせい</sup>という言葉は、女性にも男性にも共通する親としての意識や感情の類いを端的に指すものであり、必ずしも「母性」や「父性」に完全に取って代わるべき言葉として位置づけられているわけではない。

実際、これまで日本語のなかにはその種の意識や感情を表す言葉が無かったため、「母性」や「父性」に加えて、従来は光が当たりにくかった物事の見方を開く新語として、「親性」という言葉

が少しずつ世間に広まり始めていると言えるだろう。

生活のなかに深く根を張った言葉の変化は、まさに生活の変化とともに、そして、関連する他の言葉たちの変化とともに、進行していく。言葉には大きな影響力があり——さらに言えば、権威や権力もあり——、伝統の維持にも変革にも働きかける面があるが、同時に、その維持や変革の動きによって影響される面もある。そうした相互的で全体的な影響の中身を、私たちはよく見極めていかなければならない。

逆に言えば、一切の変化に先回りして一挙にすべてを変えることはできない、ということだ。ある個別の言葉に対して、ある人々の間に違和感が生まれてきたときに、自分もその言葉に対してあらためて注意を向けて見直すこと。そして、その言葉に関連する現実(生活のかたち、社会のあり方)をさまざまな角度から見直すこと。自分が見逃してきたものを見ようとする。そして、その言葉のある種の用法に対して、場合によっては異議を唱えること。——「母」は「親」に言い換えよ、といった単純明快なガイドラインに比べて、遅々とした面倒な方法に思えるかもしれない。だが、私たちの従来の物事の見方と密接に結びついている言葉に関して、その変容を促すには、そうした地道な営みこそがむしろ不可欠だ。

(古田徹也『いつもの言葉を哲学する』による。一部改変した。)

問一 傍線(1)「言語は生ける文化遺産」とあるが、筆者がこのように述べる理由を説明せよ。

問二 傍線(2)「相互的で全体的な影響の中身を、私たちはよく見極めていかなければならない」とあるが、「見極めていかなければならない」「相互的で全体的な影響の中身」とはどのようなものだと考えられるか、「母」に関する言葉の用法以外の具体例を挙げて五〇〇字程度で説明せよ。

(問題以上。答案用紙のみ提出のこと)

令和五年度 お茶の水女子大学 文教育学部

学校推薦型選抜 帰国子女・外国学校出身者特別選抜 試験問題

言語文化学科(中国語圏言語文化プログラム)

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

この部分に記載されている文章については、  
著作権法上の問題から掲載することが  
できませんので、ご了承願います。

蓮實重彦『見るレッスン―映画史特別講義』光文社新書より(一部改変)

問 自分が小説や映画、演劇その他を見て「異質なものにさらされた」と感じた経験を、傍  
線部を踏まえて具体的に論じよ。(八〇〇字以内)

令和5年度 お茶の水女子大学 文教育学部

学校推薦型選抜 帰国子女・外国学校出身者特別選抜 試験問題

言語文化学科(英語圏言語文化プログラム)

次の設問に英語で答えなさい。答えは答案用紙に記入しなさい。

Friendship comes in all manners and forms. Define what a true friend is, and explain why you think so.

言語文化学科(仏語圏言語文化プログラム)

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

『北斎漫画』に「群盲象を評す」という図がある。盲人の群れが象の各部に陣取り、それぞれ象というのはこうであると評しあう図で、示唆に富んでいる。目が見えない人たちなので、触覚に頼って述べるわけだが、ある者は象とは牙である、と言い、また別の者は、いや、象とは長い鼻である、象とは大きい耳である、木の幹のような脚である、さらさらの皮膚である、などと言い合うのだが、当然のことながら、ひとりとして象の全体像を把握することはない。一人一人が語っていることは正しいながら、それをただ集めるだけではだめなのである。

およそ異文化理解が問題となる場においては、この「群盲象を評す」と同じ状況が、現代にいたるまでつねに起こっていたのではないだろうか。膨大な情報のネットワークに結びつけられたグローバル社会というが、そこで語られる異文化理解は、どれをとっても実は限定された理解にすぎず、全体が見えていないという点で不足があり、見方自体にバイアスがかかっているという意味で偏見がある。それは、誤解をともなった異文化の「誤訳」なのだ。文化をテキストとみなし、それを互いにどのように読み、訳しているか。そこにはどんな誤訳があるか。その誤訳もしくは誤解は何によって生じたのか。

人はそれぞれ歴史的・文化的に制約を受けており、伝統や宗教、社会や家庭の環境の影響のもとに生活している。それが、異文化に接触した時に、意識的もしくは無意識的に誤解や偏見を生じさせる。われわれには所詮見えるものしか見えず、その限定性が全体の事実関係を歪曲させてしまう。ところが、そうした異文化の「誤訳」も、ひとつの見方であり、個々人にとってはかけがえのない体験、真実として受け取られているのが普通だ。出発点としては、われわれにはそれしかないようなのである。

「誤訳」はいくつ重ねても原作を再現することはできない。けれども、その「できない」ことを知っていれば、人は謙虚になり、互いの「誤訳」を比較検討しようとするだろう。対話の中で「誤訳」がどのように育ってきたのかを知り、自文化の実態を客観的に理解することも可能になるだろう。文化の翻訳とは誤訳であり、異文化間の交流とは誤解の応酬であると、いわば開き直る知恵も生まれてくる。

森鷗外の『即興詩人』は、アンデルセンの作品の単なる翻訳ではなく、その背後にあった西洋「文化の翻訳」であり、「誤訳」であった。鷗外は西洋文化の真髄にあったキリスト教を翻訳の過程で濾過して希薄化、ひとつの信仰として抽象的に扱うことで原作の日本化に成功を収め、『即興詩人』は名作の誉れを受けることになった。原作を換骨奪胎し、これを創造的に「誤訳」することによって日本の土壌にうまく育つように工夫をしたわけである。西洋の文化、当時の日本文化の現状の両方を知り抜いていた鷗外だからこそできたことだが、原作はいちじるしく変形され、アンデルセンの原作の姿をほとんどとめていない。

鷗外は、西洋文化から見たいものだけを取り入れ、同時代の日本人に理解されそうなことだけを選択して「誤訳」していた。日本で受け入れられるのに必要な操作が巧みに行われた結果生まれたのが、鷗外の『即興詩人』であった。

(カール・スコウゴール・ピーターセン著・長島要一訳『デンマーク人牧師がみた日本』「訳者によるまえがき」による)

「問い」右の文章で述べられている筆者の主張を踏まえた上で、異文化の「誤訳」について自分の考えを八百字以内で述べなさい。



令和5年度 お茶の水女子大学 文教育学部  
学校推薦型選抜 帰国子女・外国学校出身者特別選抜 試験問題  
人間社会科学科(教育科学プログラム)

《注意事項》

- 1 監督者の指示があるまで解答を開始しないこと。
- 2 試験問題は、この表紙を含めて3ページあります。
- 3 答案用紙は1枚あります。
- 4 試験問題および下書き用紙は持ち帰ること。

以下の文章は、1970 年代の日本の学校教育について書かれたものの一部である。以下の文章を読み、設問に答えなさい。

この部分に記載されている文章については、  
著作権法上の問題から掲載することが  
できませんので、ご了承ください。

この部分に記載されている文章については、  
著作権法上の問題から掲載することが  
できませんので、ご了承願います。

出典：Rohlen, Thomas P. (1983) *JAPAN'S HIGH SCHOOLS*, University of California Press, pp.322-323 を一部改変

注：inconceivable: 信じがたい nurturing: 養育、育成 preoccupied: 気をとられる conduit: 導管、パイプ

問1: 枠線で囲われた部分を和訳しなさい。

問2: 下線部について、筆者が指摘する「a socialization process」とは、どのようなものと考えられるか、日本語で説明しなさい。

問3: 筆者が論じた1970年代の日本の学校教育の強みは、これからの日本の学校教育においても有効といえるか、あなたの考えを日本語で述べなさい。

令和5年度 お茶の水女子大学 文教育学部  
学校推薦型選抜 試験問題  
人間社会科学科(子ども学プログラム)

《注意事項》

- 1 監督者の指示があるまで解答を開始しないこと。
- 2 指示に従って、配付物の枚数を確認すること。  
試験問題:表紙を含めて2ページ  
答案用紙:2枚  
下書き用紙:2枚
- 3 試験中、用のある場合は手を挙げて監督者を呼ぶこと。
- 4 問題の指示に従って答案用紙に解答すること。
- 5 試験問題および下書き用紙は持ち帰ること。

問題 以下の英文を読み、各問に答えなさい。

答案用紙は、(1)で1枚、(2)で1枚、使用すること。

この部分に記載されている文章については、  
著作権法上の問題から掲載することが  
できませんので、ご了承ください。

出典: Bailey, R., Agans, J. P., Côté, J., Daly-Smith, A., & Tomporowski, P. D. (2021). *Physical activity and sport during the first ten years of life: Multidisciplinary perspectives*. Routledge.

注: ICSSPE=International Council of Sport Science and Physical Education

proclamation : 宣言

extrapolate : 「既知の事実から」推定する

(1) ㊸の部分のを和訳しなさい。

(2) なぜ、different species(下線部㊹)と言われたのでしょうか。あなたの考える具体例を使って説明しなさい。

令和5年度 お茶の水女子大学 文教育学部  
学校推薦型選抜 試験問題  
芸術・表現行動学科(舞踊教育学専修プログラム)

- I. 現代においては、容姿の良い人を高く評価する外見至上主義（ルッキズム）が問題視されている。次の3つの問いに答えなさい。
- 1) 外見至上主義は何故問題視されているのかについて、簡潔に説明しなさい。(10 点)
  - 2) 舞踊芸術において、外見至上主義を是とする主張と、否とする主張があるとして、それぞれ想定される両者の主張の例を説明しなさい。(20 点)
  - 3) 1)と 2)を踏まえて、舞踊芸術における外見至上主義についての自分の考えを述べなさい。(20 点)
- II. 次の英文の内容を読み、設問に答えなさい。
- 1) 下線部の文章を日本語に訳しなさい。(20 点)
  - 2) 二重下線部について、本文の内容に即して説明しなさい。(30 点)

この部分に記載されている文章については、  
著作権法上の問題から掲載することが  
できませんので、ご了承願います。

Guss-West, C. (2021) *Attention and focus in dance: enhancing power, precision, and artistry*.  
(一部改変)

令和5年度 お茶の水女子大学 文教育学部  
学校推薦型選抜 試験問題  
芸術・表現行動学科(音楽表現専修プログラム)

問題

次の文章は、デジタル時代における音楽とアイドルの関係を論じたものである。文章を読んだ後、以下の設問に答えなさい。

この部分に記載されている文章については、  
著作権法上の問題から掲載することが  
できませんので、ご了承願います。

出典: Zaborowski, R. (2016). Hatsune Miku and Japanese virtual idols. In S. Whiteley, & S. Rambarran (Eds.), *The Oxford Handbook of Music and Virtuality* Oxford University Press. (問題文作成のため一部改変をほどこした。)

<sup>1</sup> Hatsune Miku: 初音ミク。ヤマハが開発した音声合成技術 Vocaloid にもとづく歌声合成ソフトウェアおよびそのキャラクター

<sup>2</sup> persona: ペルソナ、著作者(ミュージシャン)によって採用される役割やキャラクター

<sup>3</sup> mediate between A and B: A と B の間を調停する

- 問1 下線部(1) in the act of reduced listening とあるが、この文脈において reduced listening とは何を意味するか？ 本文に即して簡潔に一文で答えなさい。
- 問2 下線部(2)を日本語に訳しなさい。
- 問3 下線部(3)を日本語に訳しなさい。
- 問4 録音で音楽を聴くことが一般的となった現代においても、演奏会／コンサートの意義は失われてはいない。その要因のひとつとして、しばしば「ライブ感」の存在が挙げられる。それでは、この「ライブ感」とは一体何なのであろうか？ あなたの考えを400～500字以内で答えなさい。